☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆ 輝く地域の星となれ ☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

報道で見る氷上西高　２０１９

丹波新聞　令和元年１２月１９日（木）

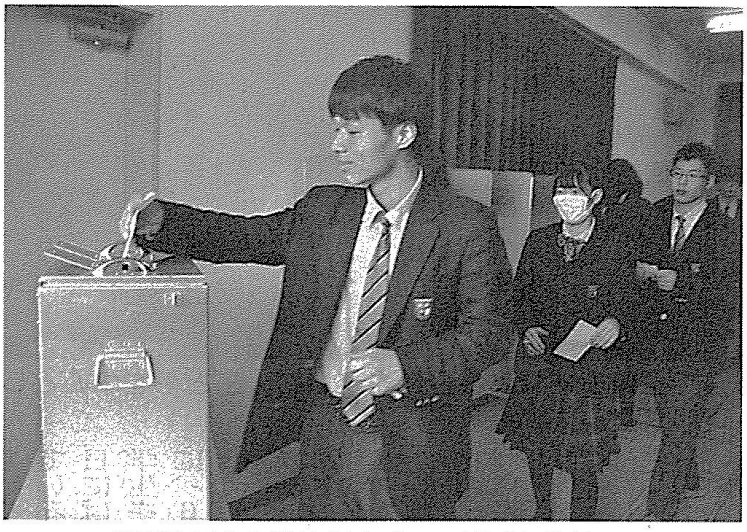
模擬投票で選挙学ぶ

氷上西高3年生 市選管が出前授業

若者の選挙への関心を高め、投票率向上につなげようと、氷上西高校で13日、選挙出前授業があった。3年生36人が選挙の意義や目的を学び、模擬投票し、投票の大切さを実感した。

市選挙管理委員会の西田浩紀さんから、投票は国民の権利であることや秘密選挙、普通選挙であることなど選挙の原則を学んだ。

市有地開発を争点に主張の異なる3候補が市長選に立った想定で行った模擬投票では、記載台と投票箱の実物を使い、投票用紙を受け取って記入し、投票する一連の流れを体験。開票の結果を踏まえ、自分たちのまちの進む方向を投票によって自分たちで決められる反面、投票に参加しないと自分の意見が反映されないことを学んだ。



模擬投票する生徒たち＝青垣町佐治で

丹波市の若者の投票率は、２０１６年参議院選の18歳が41・08％だったのが、翌年の衆議院選の19歳では19・94％に低迷。今年の参院選では18歳が36・69％、19歳が27・27％で、学級に置き換えると、3分の1程度、それ以下しか投票していない実態が紹介された。

生徒からは「投票するにはお金がいるのか」「投票結果に、責任を感じる必要があるのか」といった質問が出ていた。

赤木昂雅君は「今年の参院選は投票した。19歳になっても投票に行きたい」と話していた。